第１学年○組　国語科学習指導案

令和４年○○月○○日（水）　第○校時

在籍生徒○名（男子○名、女子○名）

　　　　　　　　　授業者　○○　○○

１　単元名・教材名　　　「『不便』の価値を見つめ直す」にある筆者の主張に対して根拠を明確にして意見を述べる

「『不便』の価値を見つめ直す」川上　浩司

２　生徒の実態と本単元の意図

　(1)　生徒観

　　　　令和4年度埼玉県学力・学習状況調査における本学年の国語の平均レベルは○-○（埼玉県平均8-C）、平均正答率が○.○（同58.8）となっている（表1参照）。「読むこと」の領域では県平均を下回っており、（本校○.○、県57.1）、読解力に関して課題が見られた。一方でその内訳をみると、説明的文章に限って言えば、正答率は県平均も超えていることが分かった（本校○.○/県55.0）。論理的展開をとらえる力については十分に身についているといえるだろう。ただ、4月当初にとったアンケートでは説明的文章よりも文学的文章の方が楽しいと答えた生徒が多いことから、苦手意識は依然として持っているようである（表2参照）。

　　［表1］　＜令和4年度埼玉県学力・学習状況調査＞（数字は正答率）

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 平均正答率 | 中１レベル | 読むこと | 文学的文章 | 説明的文章 |
| 埼玉県 | 58.8 | 8-C | 57.1 | 59.3 | 55.0 |
| 本学年 | - | - | - | - | - |

　［表2］　＜国語の学習に関するアンケート＞（数字は人数　※学年72名）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 国語の学習は  好きだ | そう思う  １２人 | だいたいそう思う  ３７人 | あまりそう思わない  ２０人 | そう思わない  ３人 |
| 話し合いに  積極的に参加 | そう思う  ２３人 | だいたいそう思う  ３８人 | あまりそう思わない  １１人 | そう思わない  ０人 |
| 自分の意見や  考えを持っている | そう思う  ２３人 | だいたいそう思う  ４７人 | あまりそう思わない  １人 | そう思わない  ０人 |
| 学習が  楽しいもの | 文学的文章  ２７人 | 説明的文章  １３人 | 古典  １７人 | 詩  ３４人 |

※「学習が楽しいもの」は複数回答

　(2)　教材観

　　　　本教材は説明的文章の中でも意見文というジャンルに分類される。これは何らかの意見が最初にあり、その意見の裏付けとなる実例や理由を複数書いて、意見を具体的なものにしていくという書き方である。本教材においては「不便」という従来の固定観念に対して柔軟な考えを持ち、深く考える力を身に付けさせようとする意見文である。そのためにまずは「必要な情報を取り出し、結び付けて要約する」ことが大切になり、それに向けて正しく読み取る力が求められる。

ここに至るまでに「ダイコンは大きな根？」「ちょっと立ち止まって」で説明的文章の読み方を学び、「『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」で筋道のとらえ方について理解してきた。説明的文章に苦手意識を持つ生徒の中には事実と意見の区別がつかなかったり、筆者の主張の要点をつかめなかったりすることがあった。

また、主体的に社会と関わり、感性を豊かに働かせることも求められている。「言われたから」「決まっているから」ではなく、自ら考え、自ら取り組んでいこうとする学習への関心や動機づけは、社会に主体的にかかわる原動力となる。感性を豊かに働かせながら、どのように未来を創っていくのか、どのように社会や人生をより良いものにしていくかについても考えさせられる教材である。

　(3)　指導観

　　　　本教材の指導にあたっては、筆者の主張を正確に読み取り、自身の考えをもって意見文を書くことを目標に進めていく。そのためにまずは正しい読み取りをしていく必要があるが、説明的文章に苦手意識を持っている生徒が多いため意識改善をしていくことが求められる。さらに、自分の考えを言葉でまとめることに抵抗を持っている生徒も少なくなく、どのようにまとめたらよいのかわからないといった反応が予想される。そこで、ジグソー法を取り入れ、いろいろな意見を協力してまとめる活動を行う。話合い活動に関しては積極的にかかわることができている生徒が多くみられ、話合いの中でも自分の考えを持っている生徒が多いという特徴を生かしていくことが大切である。積極的に他者と意見交流をすることで、そこで得た考えや文章をもとに意見文を仕上げさせていきたい。

　　　　また、固定観念への柔軟な考え方を持つために多様な考え方を学ばせていく。筆者の主張をもとに「なぜ」という疑問を常に抱かせ、多角的な視点から物事を見つめられるよう指導をしていきたい。人と違う考えを持つことに抵抗感を持ちやすい年代だからこそ、多様な考え方の許容性に気づかせ、主体的に物事を考えられる展開をつくっていく。正しく文脈を理解しないと自分の考えを持つところまで至らないので、要約に重点を置き指導を進めていく。

３　単元の目標

(1)　事象などを表す語句の量を増やすとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。

〈知識及び理解〉(1)ウ

(2)　根拠を明確にしながら、自分の考えをまとめることができる。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 〈思考力・判断力・表現力等〉B(1)ウ

(3)　言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。　　　　　　　　　　　　　〈学びに向かう力、人間性等〉

４　本単元における言語活動

　作者の主張を要約し、それに対する自分の考えをまとめ、交流する。（関連：言語活動例B(2)ア）

５　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ①事象などを表す語句の量を増やすとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。（(1)ウ） | ①「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えをまとめている。  （B(1)ウ） | ①粘り強く根拠を明確にし、学習課題に沿って考えを交流しようとしている。 |

６　指導と評価の計画（全４時間）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 主な学習活動 | 学習内容 | 指導上の留意点・評価 |
| １ | ○学習のねらいや進め方をつかみ、学習の見通しを持つ。  ○本文を読んだ後に「不便」とは何かをまとめる。 | ○本文における「不便」の定義 | ○日常で使う「不便」と意味が異なる可能性があるので、本文に書かれている表現を読み取るよう指導する。  【知識・技能①】  観察・ノート  ・ここでは説明をしている表現に注目し、適切にまとめているかを確認する。 |
| ２ | ○具体例に注目し、「不便益」について読み取る。  ○3人班を作り、それぞれが別の具体例について理解を深めるジグソー法を行う。  ○筆者の主張を簡潔にまとめる。 | ○「不便益」の解釈  ○主張の要約 | ○具体例から読み取れる「不便益」の解釈を本文でのまとめと比較させたい。  ○200字程度で要約させる。  【主体的に学習に取り組む態度①】  話合い  ・ここではどの部分をまとめるべきか話合ったり、気づいた内容をワークシートに加筆したりしようとしているかを確認する。 |
| ３　本　時 | ○要約を加筆修正し、主張を正しくとらえる。  ○4人班を作り、お互いの要約を読み合い、必要な情報が正しくまとめられているかを確認する。  ○短くまとめるための工夫について話し合う。 | ○キーワードの捉え方  ○本文の記述を根拠にした書き方  ○情報を取捨選択した要約のまとめ方 | 【思考・判断・表現①】  観察・ワークシート  ・ここでは本文の表現を根拠にして、まとめているかを確認する。 |
| ４ | ○筆者の主張に対する自分の考えを書く。 | ○根拠を明確にした意見文 | 【思考・判断・表現①】  観察・ワークシート  ・ここでは根拠を明確に示し、自分の考えをまとめているかを確認する。 |

７　本時の学習指導（第３／４時間）

(1)　目標

○　根拠を明確にしながら、自分の考えをまとめることができる。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 〈思考力・判断力・表現力等〉B(1)ウ

(2)　評価規準

　　○　根拠を明確にしながら、自分の考えをまとめている。　　　　　　　【思考・判断・表現】

(3)　展開

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 学習活動 | 学習内容 | 指導上の留意点・評価 | 時間 |
| １　前時の学習を振り返り、本時の課題を確認する。  筆者の主張の理解を通し、要約のポイントをとらえよう。  ２　前時に作成した要約を再度確認する。  ３　４人でグループを作り、お互いの要約文を読み合い、まとめ方を比較する。  ４　正しく主張をとらえるうえで必要なキーワードについて意見を交流する。  ５　筆者の主張を２００字程度でもう一度まとめる。  ６　再度同じグループで集まり、要約をするときのポイントについて話し合う。  ７　本時のまとめをする。  要約をするときには繰り返し出てくる言葉（キーワード）や中心となる文（キーセンテンス）を重視する。また、結論に着目する。  ８　学習の振り返りをする。  ＜期待される生徒の振り返り＞  「不便益」という言葉に注目することで筆者の主張をとらえることができた。筆者の考えをもとに、自分も「不便益」について考えていきたい。 | ○キーワードの捉え方  主張をとらえるキーワードの例  ・便利と不便  ・不便益  ・価値観  ・新しい視点、発想  ○本文の記述を根拠にした書き方  ○情報を取捨選択した要約  のまとめ方  ・キーワード  ・キーセンテンス  ・接続する言葉 | ○同じようにまとめている部分と異なっている部分に注目させ、その理由について考えさせる。  ○グループの中で共通して使われている言葉がキーワードになることに気づかせる。  評価規準  【思考・判断・表現①】  観察・ワークシート  ・ここでは根拠を明確に示し、自分の考えをまとめているかを確認する。  <｢努力を要する｣状況(C)への手立て>  ・要約文をかけない生徒には、繰り返し出てくる言葉に注目するよう指導する。  ○何ができるようになり、まだできるようになっていないのかを振り返らせ、次時への見通しをもたせる。 | ３  ５  １０  １０  １０  ６  ３  ３ |